

横芝工業団地の現状を探る

産業開発道路の建設と共に、大総地域（騒音地区）の開発、ひいては横芝町発展の一大要素となる工業団地計画が、今、一つの方向に向かって動き出そうとしています。
15年近くの歳月の中で、幾度となく挫折を繰り返してきた工業団地に、ゴールはあるのか——その対策と方向にスポットを当ててみました。



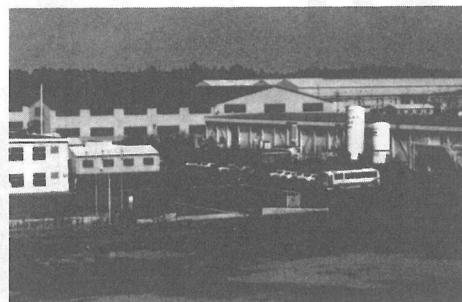
先端技術工業団地への期待が高まる予定地

大手企業の支援で具体化

悲願成就へ 地権者協力と企業努力に膨らむ期待

なぜできない工業団地

横芝工業団地は、昭和46年、県が多古・芝山・松尾・横芝の4町を、空港騒音対策として適地指定したのが始まりでした。当初の計画は60ヘクタールでしたが、ほどなく43ヘクタールに変更され、その後地元企業の進出計画の中で、さらに30ヘクタールに縮小されました。
このように規模を狭めつつも、その実現に向けてさまざまな努力が払われましたが、用地をまとめ切れず、協力した旧地権者47名の皆さんのご好意に報いられぬまま、今日に至っています。
この間、取得した用地は26ヘクタール余りありますが、それは計画規模の大きかった当時に買収したものがほとんどで、広い範囲にわたって散在していますので、とてもまとめて利用できる状態ではありません。
土地の取得に行き詰まった原因としては、この計画区域の中に、樹齢50〜80年という優良山林が存在し、県の適地指定そのものに無理があったとする意見も多く、解決策も見出せぬままに永い歳月を費してきました。



地元住民に職場を与え、町の財政をうるおす工業団地（松尾台）

工業団地は必要なのか

このように困難性の伴う工業団地計画を、なお強く推進しようとする意図は、一体何でしょうか。

近隣の、松尾町や芝山町に目を向けてみましょう。

一般的には「横芝町よりは小さな規模」、というのが常識的な見方ですが、横芝とほぼ同時にスタートした工業団地が既に完成し、企業も進出して、町の財政力ではわが町を凌駕する勢いです。

また、工業団地は格好の就職口となりますので、たくさんの方がその恩恵に浴しています。